

## 2011 年秋学期授業アンケートのまとめ

2012 年 6 月 5 日

F D 委員会

2011 年度秋学期の授業アンケートは、2012 年 1 月 16 日～2 月 1 日の間に実施されました。その後アンケート結果に対して、各教員からコメントを提出していただきました。以下、これについて分析を行います。

### (1) 数量的把握

#### 1 アンケート回収率

今回のアンケートの実施状況は以下のとおりです。

表 1 アンケート回収率

	受講者数	回答者数	回答率
全体	19,541	10,797	55.3%
座学科目	14,386	6,652	46.2%
英語科目	2,425	2,013	83.0%
独語科目	25	19	76.0%
仏語科目	15	12	80.0%
中国語科目	491	383	78.0%
朝鮮語科目	142	122	85.9%
日本語科目	149	138	92.6%
コンピュータ実習科目	281	190	67.6%
スポーツ実践科目	495	420	84.8%
教養演習科目	187	166	88.8%
専門演習科目	945	682	72.2%

演習、語学、実習は高い出席率を誇っていますが、座学では依然として、回答率が 50% を割っています。回答率が通常の出席率ではないでしょうが、それでもアンケート回収率が最低でも 50% を超すような努力が求められます。また、GPA の学年進行で、次第に登録だけして実際に履修しない学生の数も減ってくると予想されますので、この点を考慮しても、次回はスコアの改善が求められます。

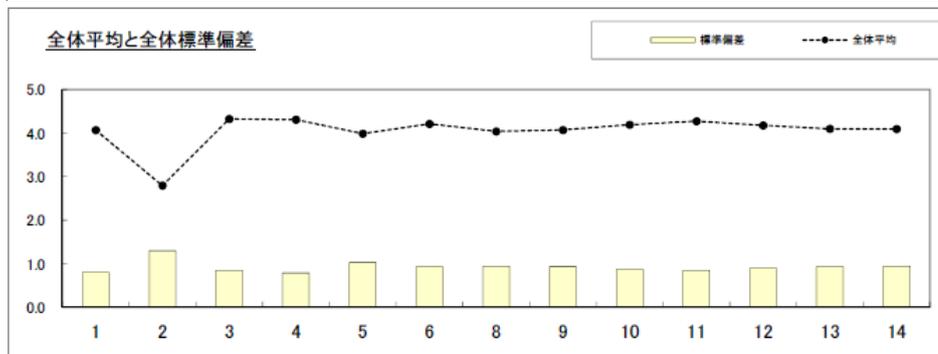
## 2 各項目の点数

各アンケート項目の点数は表2のとおりです。

過去2年間の秋学期のスコアと比較すると、どの項目もほぼ同じようなスコアでした。ただ、回収数が一昨年と比べると、約1500増えたうえでの数ですので、授業改善がより定着しているといえます。しかしながら、出席率については、1昨年から0.09、昨年から0.06下がっており、学生自身の意識からしても、わずかながら低下していることがうかがえます。

表2 授業アンケート全体スコア

		学年				学科						
		1年	2年	3年	4年	無効回答	経済学科	国際商学科	公共マネジメント学科	無効回答	受講者数	19541
		4193	3149	2325	953	177	4685	5166	674	272	回答者数	10797
<b>あなた自身について</b>												
番号	設問文	当科目の標準偏差	当科目の平均点	各マークの回答数					有効回答	無効回答		
				5 そう思う	4 やや そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそ う	1 そう 思わない				
1	この授業にはどれくらい出席しましたか。	0.81	4.07	100%	90~99%	70~69%	50~68%	49%以下	10793	4		
2	この授業に十分に予習あるいは復習をしながら臨みましたか。	1.30	2.80	必ず	ほとんど	半分くらい	少しだけ	していない	10772	25		
3	この授業の開始時間は守られていましたか。	0.85	4.32	5550	3736	1103	241	154	10784	13		
4	この授業は、基本的にシラバス(評価方法を含む)にそって運営されていましたか。	0.79	4.31	5207	3972	1400	148	61	10788	9		
5	板書やビジュアル資料などはわかりやすかったですか。	1.03	3.99	4086	3690	2081	593	316	10766	31		
6	声の大きさ、明瞭さ、速さなどの点で、教員の話し方は聞き取りやすいものでしたか。	0.93	4.21	5104	3467	1641	345	173	10730	67		
7	授業内容の難易度について、どのように感じましたか。			難しすぎた	が難しかった	適切であった	が簡単すぎた	難しすぎた	10782	15		
8	学生の反応や受けとめ方などに配慮しながら授業は進められていましたか。	0.94	4.04	4028	3914	2242	423	177	10784	13		
9	教科書等を含め授業中に用いられた教材や資料は役に立ちましたか。	0.93	4.07	4185	3919	2139	347	194	10784	13		
10	教員は、私語を注意するなど、静かな授業環境を保つための努力をしていましたか。	0.87	4.19	4737	3843	1859	227	122	10788	9		
11	授業に対する教員の熱意は感じられましたか。	0.85	4.27	5239	3699	1551	173	126	10788	9		
12	担当教員は質問しやすい雰囲気をつくるとともに、質問や相談は丁寧に対応していましたか。	0.89	4.18	4745	3685	1961	227	144	10762	35		
<b>総合評価について</b>												
13	授業を履修して、この授業科目への関心を深めることができましたか。	0.94	4.10	4270	3864	1938	306	223	10601	196		
14	総合的に見てこの授業に満足できましたか。	0.95	4.09	4304	3769	1976	318	232	10599	198		



## (2) 自由記述欄の分析

自由記述欄へのコメントをまとめてみると、春学期に指摘した以下の1～4の点が継続した課題であることは同じです。ただ、今学期には基礎演習がないため、2についての記述は減りました。そのかわり、3についての記述が増えています。また、今回は5のTA制度など授業アシストの要望がいくつかありました。

- 1 学生の多様化、学力格差への対策が急務となっています。
- 2 初年次教育の整備が早急に求められています。  
具体的には、
  - ①学習方法の基礎を育成すること
  - ②入門科目を整備すること
  - ③初年次学生のケアを意識すること
  - ④初年次配置の科目を再編すること
- 3 授業態度の悪化に対する記述が増えています。
  - ①出席率だけでなく、遅刻の常態化も問題視する声が多くあります。
  - ②学生のマナー（私語、携帯操作など）と対応力の低下を嘆く声が聞こえています。
  - ③組織的対応と個人的対応、それぞれを分けて整備する必要があります。
- 4 自ら学ぶ姿勢をどう育てるかが重要な課題です。  
学生にどのようにして予習復習をさせたらよいかという悩みが多く語られています。
- 5 TA制度などの授業アシスト制度の導入が求められています。
- 6 授業改善のために、受講人数の更なる制限が求められています。

学力格差を中心とした学生の多様化への対応の必要性を強調したコメントは相変わらず、多いように感じました。こうした多様化は受講態度の悪さにも反映しているようで、私語や携帯電話の操作については前回も指摘していましたが、今回特に目についたのは遅刻の常態化、出席率の悪さを指摘したコメントが多いことでした。非常勤講師の先生からは、後述するように、非常に厳しいコメントをいただいております。

また、やむを得ないことではありますが、就職活動のために欠席する学生が多いことにもどのように対処したらよいか、苦慮する声も記載されていました。よい実践例を参考にしながら、効果的な対処法をみなさんとともに考えていきたいと思っております。

以下に個別の事項ごとにまとめています。

### 1 出席率の改善について

今回のコメントでは、出席率の改善について、意識して記述されているものが多くあり

ました。

### 1) 出席率と成績向上の相関関係

出席率と成績の相関関係があるので、その視点から出席率の改善を図りたいというコメントがありました。そのための具体的な方法として、出席シート、ミニッツ・ペーパー、小テストの活用などの方策が書かれていました。たとえば、出席シートについては「個人別の出席シートを作成し意見や質問、感想も記入できるようにした。出席シートは毎回の講義初めに配布し終了後に回収する。意見や質問に対しては私のコメントを記入するようにした。このことにより、ある程度双方向的な講義ができたのではないか」という記述がありました。

あるいは、こうした具体的な方策は示されていませんが、学生が興味を持てる授業を熱心に行い、学生を惹きつけることで、出席率の改善をはかるという本来あるべき姿を徹底することで改善したいという意見もありました。

いずれも、学生の出席率向上が成績の向上につながるという強い意識の表れです。また、制度的な改善として、「学生証による出欠確認システムの導入あるいは TA を採用し出欠票を配布させるなどの検討」を大学に求める声もありました。

### 2) 欠席常習者と学生の負の出席意識の実態

われわれが注目すべきなのは、このような改善策の背景には、無視できない現状があることです。さまざまな努力にもかかわらず「欠席常習者」の数が少なくなく、どうしても改善に結び付かないという戸惑いの声があげられていますし、非常勤の先生からは、つぎのような厳しいお声を頂戴いたしました。

「貴学の学生は遅刻・欠席が他大学に比べて多い。遅刻にはペナルティを課したり課題を出したりしているが、それでも改善されない学生が多い。また、「授業を5回休むのは権利」だと捉えている学生も多く、授業についてこられなくなる学生もいるので、心配なところである」

また、逆に、よく出席しているから、よく勉強していると必ずしも言えず、学生のなかには出席さえしていればよいという逆の意味での出席意識があることも事実のようです。

これらを謙虚に受けとめつつ、対応策を講ずることで、最終的には学生自身たちの学習への意欲を高めることで事態の本質的な改善を図る努力をするべきでしょう。

### 3) 就職活動による欠席増加への対応策の必要

さらに、学生の意識とは別に、就職活動で欠席する場合は非常に大きいという指摘も多くありました。これまでも同じような課題はあげられていました。授業に来られない分、自主学習の時間をとらせるような措置が必要で、それに努力しているが、なかなかうまく効果が出ていないというコメントが寄せられていました。共通の課題ですので、何らかの改善策を模索する必要があります。

## 2 遅刻の常態化の改善について

欠席にも増して指摘の多かったのが、遅刻の常態化についてです。先生方も苦慮されており、さまざまな努力をしているが、どうしても改まらないという声が寄せられていました。とりわけ、30分にも及ぶ大幅な遅刻の例が後を絶たず、苦勞していると書かれていました。

また、朝1時限目の授業では遅刻が多いという記述もありました。ただ、事実の記述としてはそのとおりだとしても、教員としては1時間目だから仕方ないという意識の改善は求められるでしょう。

遅刻、欠席の常態化については、非常勤の先生から、教員組織全体としてしっかり考えるべきだという下記のような厳しい指摘を受けています。

「遅刻・欠席する学生が多いのでペナルティを科したり、課題を出すなどして十分に対処してきたが、なかなか態度が改まらない。どんなに休んでも、受講態度が悪くても自動的に単位を出す大学（注：授業ではない）だという一部の学生の噂には今年度は昨年度よりもさらに悲しい思いをさせられたので、自分自身の授業でももちろんだが、全学をあげてどの授業でも学生指導・ルールの徹底をすることが課題ではないかと考えさせられた」

どこまで一般化できるかは別としても、教員組織としてこうした事態が現実に存在していることを認識すべきでしょうし、それをどうやって改善するかについては、きちんとした議論が必要でしょう。

また、対策に苦慮されている先生からは、次のようなご提案をいただきました。「大幅に遅刻してくる学生がおり、まじめに学習している学生たちの注意力をそぐことがあり、例えば開始から20分以上経過すればドアの鍵を閉めるなどの措置が必要な時期に来ているかもしれない」

本来は個人の意識の問題である遅刻や欠席ですが、なんの対応策もなく放置しておくのではすまされないでしょう。認識と議論の積み上げが必要です。

### 3 学生の多様化・格差拡大および挑戦する意欲の低下について

学生の格差拡大については、前回詳しく論じたとおりであり、今回も同様の指摘が続きました。それに加えて、今回は「挑戦する意欲」の低下という問題点が指摘されているのは興味深い。たとえば、次のような苦悩が語られていました。「予習の不十分さというよりも、少しでも「難しい」テキストを使うと、この大学の学生にはそれに挑戦するという意気込みが感じられず、この結果も致し方ないと思う。自分が知らないことを悔しく思ったり、分かった時の喜びをどうすれば教えられるのか？」

### 4 学生の受講態度の悪化について

遅刻の常態化については上記のとおりであり、私語の多さについても、これまで同様に繰り返し指摘されています。それについて気になるのが、私語、授業環境の悪化に対して

先生がもっと注意してほしいという学生の声があることを指摘したコメントが少なくなかったことでした。マイクを使う授業で、後ろの方の私語に先生が気づいていない場合がありますが、気づきながら注意の回数が少ないという指摘もありました。過剰な注意はクラス雰囲気悪化させますが、注意がないのも問題で、この中間で何か良い方法をそれぞれが見つけるしかないようです。

それに加えて、今回のコメントでは、教科書を持ってこない学生が多いこと、また何回注意してもそれが改善されないことを指摘しているコメントが多くありました。また、試験直前まで購入しない学生がいることが記載されていました。語学の科目でもそれが指摘されていたのは深刻です。教員として、教科書の使い方をさらに工夫するとともに、このような学生の動向に注意が必要です。

## 5 自主学習の強化への取り組み

自主学習の不足は今回のアンケートでも明らかですが、前期にくらべると若干改善しています。それは、前回この点を強調してきたこともあり、それぞれの先生が改善をめざして、さまざまな工夫をされている結果だと思われます。予習・復習を義務化し、それをチェックできる方法を取り入れたり、毎回課題をだすような工夫をされている先生もおられます。また、学生の方でも、なにを「予習・復習」とみなして、アンケートに記載するかの意識が変化しているのかもしれませんが。

学生が自ら学ぶ姿勢をつけるためにどうしたらよいか、即効薬はありませんが、それぞれの教員が改善に努めていることだけは確かです。その経験を共有する場をさらに充実させ、全体として学生がより自主的に学ぶ場を増やす以外にはないでしょう。

## 6 授業方法の改善について

### 1) 基本項目について

板書、声の大きさ・スピードなどについては、依然として学生の不満が完全になくなってはいませんが、それぞれの教員はかなり意識的に努力している姿が見て取れます。たとえば、字がもともときれいに書けないが、丁寧に書く努力をしている。マイクを使うようになったなどのことが記述されていました。ただし、それでも大講義室での板書の改善の難しさなどは依然として課題が残るようです。受講人数の制限と合わせて、検討すべき課題です。

また、具体的な改善方法として、「問いかける話術」をもっと活用して、一方的な話にならないように努力していることで、理解が深まっているという例も紹介されています。

同じようなことは、確認の作業の徹底という方法となっても現れています。「わかりましたか?」「いいですか」という確認作業を繰り返すことで、理解をより徹底する努力をしていると書いておられる先生がおられました。

### 2) 難易度について

難易度についてはさまざまで、昨年の反省からやさしくしたら、やさしすぎたという反省

がなされた例も報告されています。ただし、どちらかという、コメントに記述されている限りでは、難しいと言われて再検討しようという声の方が多かった。また、教科書が難しすぎるといわれたので、「中学生レベルのテキスト」にしたところ、「適切であった」という意見が大多数になったという例も紹介されていました。

### 3) 学生の学力格差とリメディアル教育の必要性

学生の学力格差については、従来どおりの戸惑いが表明されていました。同じ講義をしても、難易度に関する評価が真っ二つに分かれる例が紹介されていました。また、こうした事態に対処するために、科目によっては（積み重ねが必要な科目など）、リメディアル教育が必要であることが強調されていました。

### 4) 授業方法の改善

#### ①ミニッツ・ペーパーの有効性

以前からも指摘されていることですが、ミニッツ・ペーパーが効果的だという意見があります。

#### ②机間巡視の重視と改善

机間巡視を重視し、まわっている間にわからないことなどについての質問を受けることで、実質的な理解の改善をはかっている例が紹介されていました。そこでは、より質問しやすい雰囲気をつくることで、「分からないことを恥じない」という教室文化を作り上げていきたい」という積極的なコメントがなされていました。

#### ③新しい教材の活用

新しい教材としては、「iTunes Uを用いて、米国の大学（スタンフォードとハーバード）の配信する教材を活用した」ところ好評であったとの報告がなされています。

### 5) 受講者数の制限

受講者数を制限し、150～200名程度を限界とすべきではないかという声が記されています。

## 7 TAの配置について

実習系の授業を中心として、TAを実質的に活用し、より充実したいという声があがっていました。また、講義系の科目でも、資料の配付、出席確認などでもTAを活用したいという声がありました。できることから、TAの活用について具体的に検討することが求められています。

## 8 語学科目について

### ①プレイスメント・テストの効果について

昨年からのプレイスメント・テストに基づく、習熟度別のクラス分けがなされていますが、これについて、こうしたクラス分けの結果、授業がしやすくなったと好意的なコメントが寄せられていました。特に、上位クラスに関しては効果が大きいという声が多くあります。

た。

#### ②クラス内の格差について

他方、多くの先生方で、基礎クラスにどのように対処していくのか、あるいは同じクラス内でもさらに差があることに悩んでいるという声も記されていました。たとえば、「予習していないで時間を取る人を待たないでください」というような声があり、学生間でも同じクラスの力や意識の差に戸惑っている様子が紹介されています。

もちろん、クラス分けが機能することで、以前よりは授業しやすくなったようですが、学生の中の意識の違いによって、うまくいって楽しかった場合とどうしたらよいか戸惑った場合の両方のコメントが寄せられていました。

#### ③再履修者対策について

また、再履修者についての問題も書かれていました。どうしても語学を得意としない学生が再履修者になるが、出席状況が悪かったり、学習意欲も高くないことが気になるというコメントがありました。

#### ④特別講義について

学生の中には、「英語の授業」だけでなく、「英語で行われる授業」をたくさん受けてほしいという学生もいる。こうした学生向けに「特別講義」を増やしたらどうだろうか、あるいはいろいろな学生に対応するために「特別講義—導入編」を開設できないだろうかという意見があった。

### 9 アンケートの実施について

アンケート実施の方法については、クロス分析を添付しないと改善のために役に立たないというご意見や、無責任な記述を回避するために記名式アンケートにしたかどうかというご意見をいただきました。

また、根本的なところでは、下記のように、アンケートの廃止を求める声も出されました。「元来、授業改善のための授業アンケートであったはずなのに、学生に対する不信感を抱かせ、教員の意欲を失わせる結果になるのなら、授業アンケートそのものをやめた方がいい」。逆に、「心が熱くなるコメントを頂き、大変感謝している」というコメントがあったり、前年度ですが、前の学期の授業アンケートにおける学生の声を参考にして、授業改善ができるので役に立つという声もありました。

当面は、実施方法と活用方法の改善を模索しながら、学生の率直な意見を聞く機会として位置づけ、活用したらどうだろうかと考えています。

#### (3) 施設改善についての各部署からのコメント

施設改善についての要望への各部署からのコメントは、以下のとおりです。

##### ①教室割について（受講者数に対して教室が狭い）

教室割については、前年度の受講者数を参考に履修登録前に一旦割り当てをし、その後

の登録者数を見ながら、同じ時限の中で教室移動をお願いするなどして対応しています。

現在、200名を超える授業については、A-101（300名）、A-201（200名）、A-301（400名）、B-101（200名）、B-203（200名）、B-303（500名）を中心に配置しています。

ただし、同じ時限に同じように人数の多い講義が集中すると、受講者数ギリギリの教室での講義となる場合があります。履修登録時に受講者制限をどのようにしていくのかは、教務委員会でも検討していますが、できるだけ皆さんの履修登録希望に沿って履修を認めたい一方で、教室が足りなくなってしまう状況が生じることもあり、判断が難しいところです。

#### ②授業の延長について（前の授業の延長により、教室に入れない）

平成24年度からチャイムを導入し、授業開始・終了時刻について、先生方や皆さんに意識していただけるようにしました。

#### ③教室機器について（機器の改善、教員に機器の使用方法を把握してほしい等）

A-101, A-201, A-301, A-302, B-101, B-203, B-303教室は、2012年度に更新しますので、新しい機器が設置されます。デジタル化を含めて対応する予定です。あわせて、教卓の配置や大きさなども検討したいと思います。

その他の教室については、更新が2014年度の予定です。その際には使いにくい部分を改善できると思います。

ただ、現在故障などで使用しづらい点については、修理を含めて適宜対応します。また、先生方にマニュアルの配付をするなど、運用面ですぐに対応可能な部分については実施していきます。

#### ④黒板の上下可動化について

現在のところ、教室への新たな上下黒板の設置は予定していません。なお、平成23年度にA棟・B棟ともに全ての黒板の修繕（板面の張替え）は終了しました。

#### ⑤トレーニングマシンについて

古いトレーニングマシンを処分し、平成24年3月に更新しました。体育館多目的室に設置しています。

#### ⑥本格的ハンドボールゴールの設置について

要望は学友会を通して、当局交渉にて提出をお願いします。なお、用具等の購入については、各サークルの実績に応じて判断しています。

#### ⑦一人一つのロッカーの設置について

学生全員分のロッカーの設置については、設置場所・管理・費用等の諸問題が多くありますので、実現は難しい状況です。

#### ⑧空調について（エアコンが切れる時間が早い、早めにエアコンを入れてほしい）

A棟については、昨年度から各教室でON・OFF、温度調整が可能となっています。極端な温度設定やスイッチの切り忘れ等が多々見受けられますので、適切な管理をよろしくをお願いします。

B棟については、現在集中管理としており、授業開始前から終了まで稼働しております

が、時間延長等があれば個別に対応させていただきます。

⑨たばこ臭について（教室がたばこ臭い、分煙を徹底してほしい等）

学生との協議のうえで、喫煙場所を設定し、分煙をしているところですが、灰皿のない所での喫煙や吸い殻のポイ捨てが目立ちます。喫煙者一人ひとりがマナーを守り、分煙にご協力ください。

⑩Wifi（無線LAN）について（教室に設置してほしい、増設してほしい）

平成23年10月より無線LANアクセスポイントをA棟、B棟の2階と本館 I 棟1階に設置していますので、ご利用下さい。増設については、これから検討したいと思います。

⑪コンピュータ実習室の開室時間について（実習室を早く開けてほしい）

実習室が9時までに開いていないことがあり、利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。今後は9時までに開室します。